

No.6「元気なあいさつをしよう。あいさつはこちらからしよう」

Q 1 : なぜ元気なあいさつが必要なのですか。

A : (1) 「美しい言葉遣い」と同じように、「元気なあいさつ」は人間と人間とのコミュニケーション、意志疎通(いしそつう)の基本中の基本だからです。

(2) 「あいさつ」にはいろいろなものがあります。例えば、

- ① 「おはようございます」
- ② 「こんにちは」
- ③ 「元気ですか」
- ④ 「こんばんは」
- ⑤ 「おやすみなさい」
- ⑥ 「いただきます」
- ⑦ 「ごちそうさまでした」
- ⑧ 「ありがとうございます」
- ⑨ 「失礼します」「お先に失礼します」
- ⑩ 「すみませんでした」
- ⑪ 「はじめまして」
- ⑫ 「よろしくおねがいします」
- ⑬ 「はい」
- ⑭ 「バイバイ」
- ⑮ 「では、又、明日」「では、又、来週」



(3) このような「あいさつ」を、自分から進んで「元気よく」することが大切です。

- ① 小さな声でボソボソとあいさつをするよりは、相手に聞こえるくらいの、少し大きな声で「あいさつ」をすることが大切です。
- ② 「あいさつ」をするときには、できたら、「相手の目」を見て、「アイコンタクト」をして、「あいさつ」をすることが大切です。
- ③ 相手と目を合わせず、小さな声であいさつをするよりは、相手の目を見て、相手に聞こえる少し大きな声で、「元気にあいさつ」をすることを心掛けましょう。

Q 2 : あいさつは「こちらからする」ものなのですか。

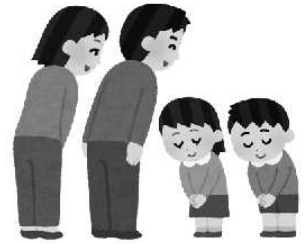
A : (1) その通りです。

(2) 「あいさつは、本来、こちらからする」ものです。

(3) 「あいさつは、こちらから元気よくする」ことを心掛けましょう。

〈あいさつをすると何かよいことがあるのですか〉

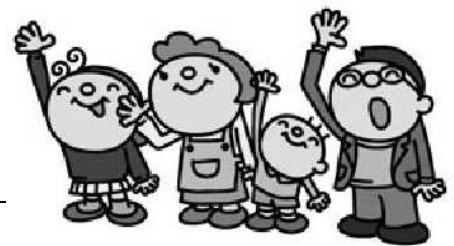
(1)たくさんあります。例えば、家族や友だち、先生方とちょっと気まずくなったときなどに、「こちらから元気なあいさつ」をすると、「気まずさ」が、少しずつ少なくなります。



(2)例えば、家族とけんかなどをして、ちょっと気まずくなったらどうするか。朝起きたら「おはよう」、朝食の前は「いただきます」、食べ終わったら「ごちそうさまでした」、学校に出かけるときには「行って参ります」、学校から家に帰ってきたら「ただいま」、夕食前には「いただきます」、食べ終わったら「ごちそうさまでした」、夜寝る前には「おやすみなさい」などと、少し大きな声で「あいさつ」をすれば、家族間の人間関係は、一気によくなります。

(3)又、例えば、学校の友だちと何かの拍子に仲たがいをしてしまったらどうするか。朝会ったら「おはよう」、学校から帰るときには「さようなら」、「バイバイ」と少し大きな声で「あいさつ」をしましょう。すぐに元通り仲良くなれます。

*このように、「元気なあいさつ」「あいさつはこちらからする」は人間関係を形づくったり、人間関係を回復するのに、計り知れないほど、絶大な効果があります。



Q 3 : メールや手紙であいさつをしてもよいのですか。

A : (1)もちろんです。メールや手紙を書くときにも、心のこもった「元気なあいさつ」を添えてください。

(2)もっと言えば、メールや手紙こそ、心のこもったあいさつや相手を気遣うあたたかいことば、感謝を表すことばを、できるだけいねいな言い方、表現で書き表すことをおすすめします。

(3)「元気なあいさつをすること」「あいさつはこちらからすること」は、人間としての行動の第1と考えます。

